

気軽にアウトドア

穴道町古墳の森



穴道町白石

穴道総合公園の目の前。大小30基の古墳からなる、穴道町最大の古墳群(水溜古墳群)をメインに整備した総合公園。広大な敷地の中は、古代生活体験ゾーン、古墳・歴史ゾーンといったテーマ別に分かれている。古代体験広場にはキャンプ場や高床倉庫風のキャビンがあり、気軽にキャンプが楽しめる。古墳の広場では県内や町内のおもな古墳の模型が展示されているのもおもしろい。アウトドア感覚で古墳の森が楽しめる。

<交通> J R穴道駅から徒歩20分
<連絡先> 0852-66-1697(総合公園)
<いにしえ> 3巻P28

顔が浮かぶ銅鐸 穴道町菟古館



穴道町穴道

誰もが聞いたことがあるような有名な書画や陶磁器、玩具などを豊富に展示。これらの美術工芸品は旧家、木幡家から寄贈されたもので、松江藩に関わるものも多い。また、すでに見ることができない穴道湖での漁労具や民具を中心に、町内の古墳からの出土品なども展示されている。中でも顔の模様がある銅鐸は、全国的にも珍しいので見逃さないように。隣の木幡山荘では美しい庭と季節の樹木が楽しめる。9時から4時半。月曜休館(祝日の場合は翌日) 大人500円、小中生100円。

<交通> J R穴道駅から徒歩5分
<連絡先> 0852-66-3245

今も現役、「殿さんのお宿」

八雲本陣(木幡家住宅)



穴道町穴道

<指定> 国重文・建造物
(木幡家住宅)

松江藩の殿様が宿にしていた「本陣」建物は穴道の町並みの中でもひととき目立ち、今にも殿様が登場するような白壁に囲まれた堂々たるもの。250年前に建てられた建物は、現在も旅館としてりっぱに活躍中。正面玄関をはいると広い土間に高い天井、昔ながらの火消し道具など、江戸時代の香りがしてくる。中には古美術品も展示されている。宿泊はもちろん、建物内の見学だけでもOK。鴨の貝焼きは名物料理。見学は300円。

<交通> J R穴道駅から徒歩10分
<連絡先> 0852-66-0136

石に遊び石に学ぶストーン・

ミュージアム

来待ストーン



穴道町来待

石のブランド「来待石」の歴史や文化、科学の世界などさまざまな角度から迫るテーマ館。古代から現代まで生活の中に息づいた来待石を見て触って楽しめる。石のトンネルをくぐると、そこはかつての石切場。高さ25mの石の絶壁は石を切り出してできたもの。その広場に石のことなら何でもわかるミュージアムがある。とくに現代の石工が古墳時代の石工に挑戦した、下の空古墳(穴道町)の石棺式石室の復元は見物。石の世界の奥の深さと温かさを感じるエリアだ。石の彫刻体験(有料・要予約)もできるなど、遊べて、学べて楽しめるおすすめゾーン。月曜休館。大人300円、小中生150円。

<交通> J R来待駅から徒歩15分
<連絡先> 0852-66-0113(穴道町役場産業課)
<いにしえ> 1巻P27



おたっぴー情報

松江市竹矢町の安国寺は、一時、松江藩主だった京極氏の菩提寺。ここには宝篋印塔という供養塔があるが、そのうち1つはなんと、福井県の笏谷石で造られた逸品。鳥根県では1例しかない、貴重な存在だ。玉湯町の蛇喰遺跡からは、土器に文字や記号を書いて焼かれた、古代の「ヘラ描き土器」が多く出土している。漢字の「林」や「由」というものがとくに目立って多いらしい。これが何であるかについては諸説あり、製作者や焼いた窯をあらわしたり、地名(「由」は「湯」)をあらわしたものとも言われているが、結論は出ていない。

昔の道、その面影を探す

道。それは大昔から人びとが暮らすうえでなくてはならないものであり、どの時代にあっても道の整備は重要な課題でした。道は次代の変化とともに大きく姿を変えてきましたが、その面影を伝えるものが今日も各地に残されています。21ページで紹介した「伊志見一里塚」もそうです。

一里塚は、江戸時代になってすぐ幕府の命令で全国の街道に設置されたものですが、明治時代になるとそのほとんどが消えていき、鳥根県内で現存しているのは安来市の安来一里塚と斐川町の西・伊波野一里塚、穴道町の伊志見一里塚だけです。

時代劇でもよく登場しますが、江戸時代、街道沿いには松がたくさん植えられていました。真夏に陰を作ってくれる松並木は、旅人に喜ばれたことでしょう。このように「昔の道」のシンボルだった松ですが、時代が進むにつれ邪魔者扱いされ伐採されたり、長い年月で枯れてしまい、ほとんど姿を消してしまいました。

そんな中で、今もその面影をとどめているのが、松江市の津田小学校付近にある松です。津田小学校前の道路は旧出雲街道で、このあたりの街道沿いには松が植えられ、「津田の松原」と呼ばれていました。記録によると、雑賀町あたりまで続く松並木だったようです。

道の整備が行われたすのび江戸時代以降と一般

現在残っている「津田の松原」
松江市東津田町津田小学校前
(1995年撮影)



に思われがちですが、なんと今から1300年前にも、「国の役人専用道路」兼「軍用道路」が作られていました。その名残を松江市の乃木福富町で見ることができます。

この道は古代の山陰道で、国の役人が地方を巡回したり情報を伝えたり、反乱があったときに軍隊を輸送するため、奈良時代に全国に向けて作られたものです。現在は畑になっていますが、よく見ると道のノリ面がわずかに残っているのに気づきます。「昔の道なんてたかがしれてる」とバカにしてはいけません。道幅は10mもあり、しかも最短距離になるようまっすぐなルートを選んで山を削り、谷を抜けたのです。「広くてまっすぐな」古代の道路建設は、奈良の都の中央政府の権威を示すためのビッグプロジェクトだったと言えるでしょう。ですから都の力が衰えると、古代の道路はすたれていく運命をたどりました。

古代から現代まで、使う人や目的によって変わってきた道。今でも残っている昔の面影を探してみてください。



旧山陰道「津田の松原」
(昭和初期撮影)

松江市福富町
「1300年前の古代道路」

